

抗カビ性の迅速測定

抗カビ対応製品の性能評価や生活環境におけるカビ検査を迅速に行います。

抗カビ試験の概要

● 既存培養方法

「抗カビ性試験」では、JIS Z 2911、JIS R 1705を基本として様々な工業製品や材料、例えばプラスチックやガラス、ゴム、鋼板、布など幅広い抗カビ製品の性能評価を行っております。

試験には、Aspergillus niger(クロコウジカビ)・Penicillium citrinum(アオカビ)・Cladosporium cladosporioides(クロカビ)などを単一、或いは混合して用います。

JIS法では、カビを寒天培養する為、試験に7日～14日程度、カビの種類によっては1ヵ月を要していました(写真1、写真2)。本試験ではATP(アデノシン三リン酸)法を採用することにより、短期間で評価することが可能となりました。

● ATP(アデノシン三リン酸)法

ATP法は、菌の細胞内に含まれるATP濃度を特定波長の吸光度で定量化する方法を「抗カビ性試験」に導入することにより、短期間でカビの発育程度を評価することが可能となりました。製品の種類や形状、使用するカビの種類など、お気軽にご相談・お問い合わせ下さい。

壁・床などの建築部材、或いは食品に発生するカビの同定検査なども行っておりますので、併せてご利用下さい。

培養法による試験

● 培養されたカビの外観:10日～1ヵ月培養後カウント



写真1 クロコウジカビ

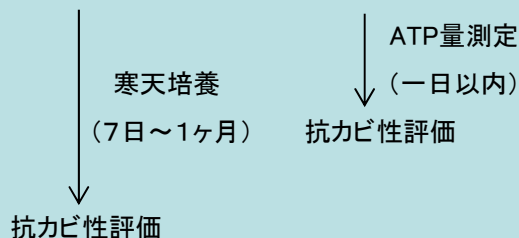


写真2 クロカビ

ATP法による試験

● ATP法の手順

検体に試験カビを接種し、数日間培養



その他カビ試験のご紹介

- 壁・床などの建築部材やゴム・樹脂・繊維製品などの生活用品に発生するカビの検査。
- 食品に発生するカビの検査。
- 衛生設備室内におけるカビの定期検査。
- 光触媒抗カビ試験評価。

「抗カビ製品開発」のお手伝い等も行っております。併せてご利用下さい。